

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
教育学部	学校教育課程	夜・通信	24	41	0	65	13	
医学部	医学科	夜・通信		0	25	49	19	
	看護学科	夜・通信			18	42	13	
工学部	環境応用化学科	夜・通信		22	0	46	13	
	社会環境システム工学科	夜・通信			3	49	13	
	環境ロボティクス学科	夜・通信			0	46	13	
	機械設計システム工学科	夜・通信			2	48	13	
	電子物理工学科	夜・通信			4	50	13	
	電気システム工学科	夜・通信			0	46	13	
	情報システム工学科	夜・通信			8	54	13	
	工学科	夜・通信			24	70	13	
農学部	植物生産環境科学科	夜・通信		2	10	36	13	
	森林緑地環境科学科	夜・通信			11	37	13	
	応用生物科学科	夜・通信			23	49	13	
	海洋生物環境学科	夜・通信			5	31	13	

	畜産草地科学科	夜・通信			6	32	13	
	獣医学科	夜・通信			73	99	19	
地域資源創成学部	地域資源創成学科	夜・通信	24	26	0	50	13	
(備考) 2020 年度に工学部を改組し、新たに工学科を設置。 2020 年度以降入学：工学科 ※編入生は除く 2019 年度以前入学：環境応用化学科、社会環境システム工学科、環境ロボティクス工学科、機械設計システム工学科、電子物理工学科、電気システム工学科、情報システム工学科								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://webclass.eden.miyazaki-u.ac.jp/webclass/ip_mods.php/addon/miyazaki-u/plugin/syllabus/search

キーワードに「実務経験」を入力⇒学部等のタブを選ぶ⇒「検索」

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/yakuinshoukai01_20240401.pdf
1 ページ参照

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2009 年 4 月 1 日～ 2024 年 9 月 30 日	法務
非常勤	株式会社役員	2022 年 4 月 1 日～2024 年 9 月 30 日	広報
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 「シラバス作成のためのガイドライン(シラバス作成要領)」(令和3年10月21日宮崎大学教育委員会決定)に基づき、シラバスを作成している。授業開始前に、授業科目に関する基本情報、授業の目標に関する情報、授業内容・方法に関する情報、成績評価に関する情報、教材に関する情報、教員に関する情報、履修に関する情報を記載したものを作成し、学生に周知している。 宮崎大学教育委員会は、年度毎に全授業科目について作成状況を点検し、すべての部局においてシラバス作成率が100%になるよう厳密に管理している。	
授業計画書の公表方法	https://wakaba3.of.miyazaki-u.ac.jp/campusweb/slbssrch.do
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価を受ける出席要件は、授業回数の75%以上(医学部では3分の2以上)としている。成績評価基準と成績評価方法は、キャンパスガイド及びシラバスを通して学生に周知し、学期の初回の授業時にも説明している。シラバスに明記された成績評価基準・評価方法に従って、授業への取組状況、レポート、中間テスト、最終試験等の組み合わせにより成績評価を行い、単位を認定している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学の教育方針として、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）の点検・評価項目の一つに「GPA制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行う」と定めている。 GPAの計算方法については、以下のとおりキャンパスガイドや大学のウェブサイトで公表している。 $GP = (\text{成績素点} - 54.5) / 10$ 不合格（60点未満）の場合、GPはゼロとする。 $GPA = \Sigma (\text{科目のGP} \times \text{科目の単位数}) / \Sigma (\text{履修登録単位数})$ Σ は、各学期または累積の受講科目に関する合計を示す。 また、本学では、学生が学習・教育目標を高いレベルで達成するため、学修支援システムの一つである「学習カルテ：履修システム」にGPAを導入し、学生自ら自分のGPAを確認できるようにしている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.miyazaki-u.ac.jp/cess/research/gpa_index.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 大学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に定めている。 卒業認定基準については学務規則に定めており、学長は卒業認定基準に従って各学部教授会の議を経て、卒業認定を行っている。学生にはキャンパスガイドで周知するとともにウェブサイトで公表している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/finance/reporting.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	
事業報告書	http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/finance/reporting.html
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~hyouka_web2/gakugai/new/jikotenken.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~hyouka_web2/gakugai/new/ninsyou.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部小中一貫教育コース
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ） （概要） 教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること 2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと 3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること 4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ） （概要） 教育学部では、以下のような能力を卒業要件としている。 1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html） （概要） 【教育課程の編成】 1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。 2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーションを含む）、専門接続系）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）と未来共創科目を設置する。 3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。 4. 小学校・中学校・小中一貫校の教員としての知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。 5. 小学校・中学校・小中一貫校の教員として必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。 6. 教科内容に関する確かな知識が身につくように、「教科に関する科目」を設置する。 7. 得意とする専攻分野の専門的知識が修得できるように、中学校の各教科の「教科に関する科目」を設置する。

8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>）

（概要）

小中一貫教育コースでは、児童・生徒の長期にわたる発達過程を見通す見識、児童・生徒への深い理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身につけた教員の養成を目標としています。

1. 求める学生像

小中一貫教育コースでは、小学校・中学校・小中一貫校等の教員を目指す教職への意欲にあふれ、教職に必要なたしかな知識・技能(以下、「知識・技能」)について研鑽を積み、教育課題を解決するために必要な思考力（以下、「思考力」）と児童・生徒への適確な指導に資する表現力（以下、「表現力」）と学校現場で生きる協調性（以下、「協調性」）をもち、それらを高めるべく努力を怠らない人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

・一般選抜

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。

・学校推薦型選抜、総合型選抜（一般枠、帰国生徒枠）

一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的かつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について

1)a 一般選抜（前期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学修で必要となる発展的学力について、大学入学共通テストと個別学力検査、面接によって総合的に判断します。

大学入学共通テストでは「知識・技能」に特に大きい比重をおき、「思考力」に大きい比重をおいて評価します。

個別学力検査では「知識・技能」、「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおいて評価します。

面接では「教職への意欲」、「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「協調性」に比重をおいて評価します。

1)b 一般選抜（後期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学修で必要となる発展的学力について、大学入学共通テストと小論文、面接によって総合的に判断します。

大学入学共通テストでは、「知識・技能」に特に大きい比重をおき、「思考力」に大きい比重をおいて評価します。

小論文では「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「教職への意欲」、「知識・技能」に比重をおいて評価します。

面接では「教職への意欲」、「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「協調性」に比重をおいて評価します。

2)a 学校推薦型選抜（小学校主免専攻・宮崎県教員希望枠）

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを課した上で、面接、小論文、提出書類（推薦書・調査書・志望理由書）によって多様な能力を総合的に判断します。

大学入学共通テストでは「知識・技能」に特に大きい比重をおき、「思考力」に大きい比重をおいて評価します。

面接では「教職への意欲」、「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。

小論文では「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「教職への意欲」、「知識・技能」に比重をおいて評価します。

提出書類では、「教職への意欲」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」に大きい比重をおいて評価します。

2)b 学校推薦型選抜（中学校主免専攻）

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを課した上で、面接、小論文、提出書類（推薦書・調査書・志望理由書）によって多様な能力を総合的に判断します。

大学入学共通テストでは「知識・技能」に特に大きい比重をおき、「思考力」に大きい比重をおいて評価します。

面接では「教職への意欲」、「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。

小論文では「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「教職への意欲」、「知識・技能」に大きい比重をおいて評価します。

提出書類では「教職への意欲」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」に大きい比重をおいて評価します。

3)a 総合型選抜（一般枠）（小学校主免専攻・宮崎県教員希望枠）

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを課さないかわりに、面接、小論文、課題探究型学習に関する口頭試問、書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では「教職への意欲」、「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。

小論文では「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「教職への意欲」、「知識・技能」に大きい比重をおいて評価します。

課題探究型学習に関する口頭試問では「知識・技能」、「思考力」、「表現力」、に特に大きい比重をおき、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。 書類審査では「教職への意欲」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」、に大きい比重をおいて評価します。 3)b 総合型選抜〈一般枠〉(中学校主免専攻) 音楽・美術・保健体育) 得意とする教科を有し、入学後もその教科を専修とすることを希望する者に対し、大学入学共通テストを課さないかわりに、面接、小論文、各教科の定める個別審査、提出書類(自己推薦書、志望理由書、実技・活動等に関する調書)によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では「教職への意欲」、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。 小論文では「知識・技能」、「思考力」、「表現力」、に特に大きい比重をおき、「教職への意欲」に大きい比重をおいて評価します。 各教科の定める個別審査では「知識・技能」、「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおいて評価します。 4) 総合型選抜〈帰国生徒枠〉 帰国生徒に対し、大学入学共通テスト及び個別学力検査は免除し、面接、小論文及び提出書類の結果を総合的に判断します。 面接では「教職への意欲」、「思考力」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。 小論文では「知識・技能」、「思考力」、「表現力」、に特に大きい比重をおき、「教職への意欲」に大きい比重をおいて評価します。 提出書類では「知識・技能」に大きい比重をおいて評価します。 4. 入学までに身に付けてほしいこと 高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの教科に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、「思考力」、「表現力」、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれます。

学部等名 教育学部教職実践基礎コース
教育研究上の目的(公表方法: http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/)
(概要) 教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密着型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること 2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと 3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること 4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法: http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html)
(概要) 教育学部では、以下のような能力を卒業要件としている。 1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを实践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。

4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーションを含む）、専門接続系）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）と未来共創科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 学校の教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 学校の教員に必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、現代の教育課題に対応できる高度な実践力を身につけ、地域や学校における指導的役割を果たし得る基礎的な資質・能力を身に付けるため、教職大学院までの6年間を見通した、「教職実践基礎コース専門教育科目」として「教職に関する科目」の中に設置する。
6. 教科内容に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教科に関する科目」「教職に関する科目」を設置する。
7. 得意とする専攻分野の専門的知識が修得できるように、中学校の各教科の「教科に関する科目」を設置する。
8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。

5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>）

（概要）

教職実践基礎コースでは、幼児期から青年期にわたる長期の発達過程を見通した上で、幼稚園・小学校・中学校・小中一貫校・義務教育学校に共通する教職に関する高い専門性を持ち、現代の教育課題に多角的に対応できる教員の養成を目標としています。

1. 求める学生像

教職実践基礎コースでは、幼稚園・小学校・中学校・小中一貫校・義務教育学校における教育に対して熱意を持って取り組み、教科全般に関わる基礎学力、また、得意とする分野の学力や技能（以下、「知識・技能」）を有し、これらを教育実践に活用しようとする教職への意欲を持っている人、現代の教育課題に対応するために、幅広い学問や文化を意欲的に学び、広い視野を身につけ、それを幼児教育・初等教育・中学校教育・小中一貫教育に生かす思考力・表現力（以下、「思考力・表現力」）を持っている人、また、学び続ける喜びを幼児・児童・生徒と共有したいと考え、宮崎県をはじめとする地域に根ざす学校づくりの有力な一員となる協調性（以下、「協調性」）を持っている人を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

・一般選抜

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。

・学校推薦型選抜（宮崎県教員希望枠）

高等学校での学業成績が優秀で、宮崎県の小学校教員を目指す者を対象とし、入学者を選考します。

・総合型選抜（帰国生徒枠）

一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的でかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について

1) 一般選抜（前期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学修で必要となる発展的学力について、大学入学共通テストと個別学力検査、面接によって総合的に判断します。

大学入学共通テストでは、「知識・技能」に特に大きい比重をおき、「思考力・表現力」に大きい比重をおいて評価します。

個別学力検査では、「思考力・表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」に大きい比重をおいて評価します。

面接では、「教職への意欲」、「協調性」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「思考力・表現力」に大きい比重をおいて評価します。

2) 学校推薦型選抜（宮崎県教員希望枠）

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接、小論文及び提出書類（推薦書、調査書及び志望理由書）によって、宮崎県の教員をめざし、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となる意欲と、現代の教育課題に対応するために他者と協力して課題解決しようとする意欲を持つ人を受け入れるために、多様な能力を総合的に判断します。

面接では「教職への意欲」、「協調性」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「思考力・表現力」に大きい比重をおいて評価します。

小論文では「教職への意欲」、思考力・表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」に大きい比重をおいて評価します。

提出書類では「教職への意欲」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、に大きい比重をおいて評価します。

3) 総合型選抜（帰国生徒枠）

帰国生徒に対し、大学入学共通テスト及び個別学力検査は免除し、~~小論文~~面接、小論文及び提出書類の結果を総合して選抜します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの教科に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、「思考力・表現力」、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれます。

学部等名 教育学部発達支援教育コース子ども理解専攻

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

（概要）

教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。

1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること
2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと
3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること
4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

教育学部では、以下のような能力を卒業要件としている。

1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーションを含む）、専門接続系）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）と未来共創科目を設置する。

3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 小学校、幼稚園・認定こども園の教員としての知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 小学校の教員として必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と教科に関する指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、子どもと子どもをとりまく大人の心理や行動に対する省察や、問題の予防や対処のための専門的な知識や技能が身につくように、「教職に関する科目」として子ども理解に関する科目を設置する。
6. 小学校の教科内容に関する知識が身につくように、「教科に関する科目」を設置する。
7. 幼稚園・認定こども園の教員として必要な使命感や倫理観、および幼稚園教育に関する確かな知識と指導法が身につくように「保育内容の指導法」等を設置する。
8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを实践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を实践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>)

（概要）

子ども理解専攻では、幼児期から児童思春期にわたる子どもの心理、発達過程を見通す深い見識と理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身に付けた教員の養成を目的としています。

1. 求める学生像

子ども理解専攻では、幼児期から児童思春期の子どもの教育に対する意欲にあふれ、教職に必要なたしかな知識・技能(以下、「知識・技能」)について研鑽を積み、目標に向けて強い意志と行動を貫くことができる思考力・主体性（以下、「思考力・主体性」）、児童・生

徒への適確な指導に資する表現力（以下、「表現力」）と学校現場で子どもと保護者と信頼関係を築き、同僚と協力して問題に取り組んでいける対人関係能力（以下、「協調性」）を身に付けるための努力を怠らない人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

・一般選抜

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。

・学校推薦型選抜、総合型選抜（帰国生徒選抜）

一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的でかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について

1) 一般選抜（前期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学修で必要となる発展的学力について、大学入学共通テスト、個別学力検査、面接によって総合的に判断します。

大学入学共通テストでは「知識・技能」に特に大きい比重をおき、「思考力・主体性」に大きい比重をおいて評価します。

個別学力検査では「思考力・主体性」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「表現力」に大きい比重をおいて評価します。

面接では「教職への意欲」、「思考力・主体性」、「表現力」、「協調性」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」に大きい比重をおいて評価します。

2) 学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを課した上で、面接、提出書類（推薦書・調査書・志望理由書）によって多様な能力を総合的に判断します。

大学入学共通テストでは「知識・技能」に特に大きい比重をおき、「思考力・主体性」に大きい比重をおいて評価します。

面接では「教職への意欲」、「思考力・主体性」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。

提出書類では「教職への意欲」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「思考力・主体性」、「表現力」、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。

3) 総合型選抜（帰国生徒枠）

帰国生徒に対し、大学入学共通テスト及び個別学力検査は免除し、面接、小論文及び提出書類の結果を総合して選抜します。

面接では「教職への意欲」、「思考力・主体性」、「表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。

小論文では「教職への意欲」、「思考力・主体性」、「表現力」に特に大きい比重をおいて評価します。

提出書類では「教職への意欲」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」、「思考力・主体性」、「表現力」、「協調性」に大きい比重をおいて評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの教科に関する基礎学力を十分身に付けておくことが望まれます。また、「思考力・主体性」、「表現力」、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人コミュニケーション能力を身に付けておくことが望まれます。

学部等名 教育学部発達支援教育コース特別支援教育専攻

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

(概要) 教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること 2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと 3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること 4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
(概要) 教育学部では、以下のような能力を卒業要件としている。 1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
(概要) 【教育課程の編成】 1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。 2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーションを含む）、専門接続系）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）と未来共創科目を設置する。 3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。 4. 特別支援教育に携わる教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。 5. 学校の教員として必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。 6. 教科内容に関する確かな知識が身につくように、「教科に関する科目」を設置する。 7. 特別支援教育に関する確かな知識と指導法が身につくように、「特別支援教育に関する科目」を設置する。 8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。 【教育内容・方法】 1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。 2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双

方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを实践できるようにする。 3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。 4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を实践できるようにする。 【学修成果の評価】 1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。 2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。 3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。 4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。 5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。 6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。 入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html） 2. 入学者選抜の基本方針 ・一般選抜 入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前日程」の選抜区分により、入学者を選考します。 ・学校推薦型選抜 高等学校での学業成績が優秀で、特別支援学校教員を目指すことに意欲的な者を対象とし、入学者を選考します。 ・総合型選抜（帰国生徒枠） 一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的かつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。 1) 一般選抜（前期日程） 高等学校までに修得した基礎的学力と特別支援教育に関する大学での学修で必要となる発展的学力について、大学入学共通テスト、個別学力検査、面接によって、総合的に判断します。 大学入学共通テストでは「知識・技能」に特に大きい比重をおき、「思考力・表現力」に大きい比重をおいて評価します。 個別学力検査では「思考力・表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」に大きい比重をおいて評価します。 面接では「特別支援教育に対する意欲」、「協調性」に特に大きい比重をおき、「思考力・表現力」、「創意工夫・向上心」に大きい比重をおいて評価します。 2) 学校推薦型選抜 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを課さず、小論文、面接、提出書類（推薦書・調査書）によって多様な能力を総合的に判断します。 小論文では、「思考力・表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」に大きい比重をおいて評価します。 面接では「特別支援教育に対する意欲」、「協調性」に特に大きい比重をおき、「思考力・表現力」、「創意工夫・向上心」に大きい比重をおいて評価します。 提出書類では「知識・技能」特に大きい比重をおき、「特別支援教育に対する意欲」に大きい比重をおいて評価します。

3) 総合型選抜（帰国生徒枠）

帰国生徒に対して、大学入学共通テスト及び個別学力検査は免除し、面接、小論文及び提出書類の結果を総合して選抜します。

面接では「特別支援教育への意欲」、「協調性」に特に大きい比重をおき、「思考力・表現力」、「創意工夫・向上心」に大きい比重をおいて評価します。

小論文では「思考力・表現力」に特に大きい比重をおき、「知識・技能」に大きい比重をおいて評価します。

提出書類では「知識・技能」に特に大きい比重をおき、「特別支援教育への意欲」に大きい比重をおいて評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの教科に関する基礎的学力を十分身に付けておくことが望めます。また、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望めます。

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ） （概要） 医学部は、昭和 49 年国の無医大県解消施策・一県一医大構想のもとに設立された宮崎医科大学を前身とし、平成 15 年 10 月の統合により、その 29 年の歴史を終え宮崎大学医学部となりました。本学部の使命は「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した 医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。 さらに医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師及び医学研究者の育成を目指しています。本学科の卒業生は、医師として、医学研究者として、あるいは医学教育者として幅広い分野で活躍し、医学の発展と社会福祉の向上に貢献しています。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ） （概要） 宮崎大学医学部医学科では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位(学士号)を授与します。 1. 社会に貢献できる医療人として、豊かな人間性を持ち、謙虚な心で、人命尊重、的確な判断力、実行力を備え、義務と権利を適正に行使できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的に学び、自己研鑽し、最新の医学の知識を生涯にわたって学修することができる。 3. 教育によって身に付けた医学の知識や新たな知見を複眼的、論理的に分析するとともに、課題を認識し医療の進歩に貢献できる。 4. 相手の伝えたいことを的確に理解し、自己を表現でき、他職種と連携してチーム医療を実践できる。 5. 医学を学ぶ機会が得られたことへの感謝の心とプロフェッショナルとしての自覚を持ち、教育で得た知識、技能によって地域医療に貢献できるとともに、グローバルにも活躍できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ） （概要） 医学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【教育課程の編成】 以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。本教育課程は、6 年間を通して、本学科が教育目標とする「進歩した医学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔で、社会の多様なニーズに対して広い視野をもって医学を実践できる資質の高い医師、並びに医学研究者を育成する」を体現化するよう体系化され、基礎から専門へ、経年的に知識・技術が積み重ねられるように教養教育科目、専門科目を設定しています。 1. 教育科目は教養教育科目、専門科目である基盤形成科目、臨床医学科目に大別されます。教養教育科目には、大学人、社会人としての教養と専門教育の基礎的知識と基本的な学習能力を獲得するために、すべての学生が履修する全学共通カリキュラムとして、導入科目、課題発見科目、未来共創科目が設定されています。学生の主体性が発揮できるように、また、医学を学ぶために必要な幅広い知識、教養、豊かな人間性と情操の育成のために多くの科目を設定しています。 2. 基盤形成科目は、医学の基礎となる教育内容に重点をおいた授業科目で、1 年次から 3 年次に開設されます。また、最新の医療トピックにも関心がもてるように授業内容を

工夫しています。

3. 臨床医学科目は、臨床医として望ましい態度・価値観と必要とされる知識・技術を身に付けさせることを目的として、3年次後期から6年次に臨床実習教育を含めて開設されます。4年次の臨床実習前には、臨床診断学実習において、臨床医として望ましい態度や価値観を早期に身に付けさせる教育を行い、また、本学科の進級試験の他に全国共通の「共用試験」が課せられ、臨床実習を行うために必要不可欠な知識・技能・態度が修得できているかについて、厳正・公正な評価を行っています。
4. 臨床実習教育は臨床医として望ましい態度や価値観を早期に身に付けさせることを目的として開設されます。4年次後期から5年次前期のクリニカル・クラークシップⅠは、本学附属病院の各診療科をローテーションで回り、5年次後期から6年次前期のクリニカル・クラークシップⅡでは、学内診療科及び学外医療機関で、共に少人数グループを重視した臨床参加型実習として行われています。地域医療を含め豊富な症例に接することにより臨床経験の幅を広くし、充実した臨床実習を行うため、本学附属病院のほか、県立宮崎病院などの学外の関連教育病院と連携協力し、臨床実習教育を行っています。
5. これとは別に医学生としての自覚を早期に促すことを目的として、1年次、2年次に学内・学外で医療と介護の体験実習を行います。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、ディプロマ・ポリシーに従い、到達目標、授業計画、成績評価基準、学習方法を明示し、周知します。
2. 基礎教養教育カリキュラムでの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを实践できるよう指導します。
3. 専門教育において、知識・技能、理論・実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習等の多様な教育方法を取り入れます。
4. 学士課程において、地域の理解を深めるため、学外での実習等を取り入れ、地域の課題を理解し、対応できるように教育します。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表します。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行います。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析します。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価します。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行います。
6. 学生が学修目標の達成状況を、エビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>)

（概要）

医学科では、臨床医、医学研究者、あるいは医学教育者として宮崎の地域医療に貢献し国際的にも活躍できる、優れた人材の育成を目標としています。

1. 求める学生像

医学科では、自ら課題を見つけ解決しようとする探求心と意欲、行動力（主体性・学問への関心）を有し、医学と医療を学ぶために必要な幅広い基礎学力・応用能力（知識・技能）と他者と協調・共感できる豊かな人間性（協調性・思考力・表現力）を持つ人、また、

学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

選抜区分	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。
学校推薦型選抜 (地域枠)	高等学校での学業成績が優秀で、宮崎県の地域医療に貢献する熱意がある入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

求める能力や適性等 選抜区分		知識・技能	主体性 学問への関心 協調性 思考力 表現力
前期日程・後期日程	共通テスト	◎	○
	個別学力検査	○	◎
	面接		◎
学校推薦型選抜 (地域枠)	共通テスト	◎	○
	面接		◎

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高校で履修した科目に関する基礎学力について十分な深達度を得ていることが望まれる。さらに、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれる。

学部等名 医学部看護学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

（概要）

医学部看護学科は昭和 49 年に設立された宮崎医科大学が前身であり、平成 13 年に併設されました。平成 15 年 10 月年に旧宮崎大学と統合して、宮崎大学医学部看護学科として、現在まで多くの優秀な医療人・医学研究者を世に送り出しています。わたくしたちは、日頃から統合後の新生宮崎大学のスローガンである『世界を視野に地域から始めよう』のもと、地域社会はもとより広く世界に通用する医療人、医学研究者の育成を目指しています。看護学科の卒業生は、人間性豊かな看護師、保健師、または助産師として人々の健康への援助を実践し、看護学の発展ならびに社会福祉に貢献しています。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

宮崎大学医学部看護学科では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位(学士号)を授与します。

1. 社会に貢献できる医療人として、豊かな人間性を持ち、謙虚な心で、人命尊重、的確な判断力、実行力を備え、義務と権利を適正に行使できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的に学び、自己研鑽し、最新の看護学の知識を生涯にわた

って学修することができる。 3. 教育によって身に付けた看護学の知識や新たな知見を複眼的、論理的に分析するとともに課題を認識し医療の進歩に貢献できる。 4. 相手の伝えたいことを的確に理解し、自己を表現でき、他職種と連携してチーム医療を実践できる。 5. 看護学を学ぶ機会が得られたことへの感謝の心とプロフェッショナルとしての自覚を持ち、教育で得た知識、技能によって地域医療に貢献できるとともに、グローバルにも活躍できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html）
（概要） 看護学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【教育課程の編成】 以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 本教育課程は、4年間を通して、本学科の目標とする「情操豊かな人間性と生命尊厳への畏敬の心をもった看護専門職」を育成するように体系化しています。基礎から専門へ、経年的に知識・技術が積み重ねられるように教養教育科目、専門基礎科目、専門科目を設定し、系統的に科目を配置しています。 2. 教養教育科目は大学人としての教養と専門教育の基礎知識と基本的な学習能力を獲得するために、すべての学生が履修する全学共通カリキュラムとして、導入科目、課題発見科目、未来共創科目が設定されています。学生の主体性が発揮できるように、また、看護学を学ぶために必要な幅広い知識と教養と、豊かな人間性と情操の育成のために多くの科目を設定しています。 3. 専門基礎科目は、人間理解、健康と疾病理解、保健社会の仕組みの理解を主軸に構成しています。そして最新の医療トピックにも関心が持てるよう授業内容を工夫しています。 4. 専門科目は、教養教育科目、専門基礎科目を基盤としたうえで、基礎看護学、在宅看護学、地域看護学、成人・老年看護学分野、精神看護学、小児看護学、母性看護学を設定しています。また、実践能力や課題解決能力を高め、主体的に専門性を深める統合と実践の科目を設定しています。 5. 看護学は対象の健康ニーズへの援助を行う実践の科学です。看護の対象となる人々の生活者としての側面と身体的・精神的側面を包括的に理解し、対象に応じた看護を実践し、評価する臨地実習を設定しています。1、3年次にはひむか看護実習で地域で暮らす生活者としての人々を理解し、1、2年次には基本的な看護の役割を理解する基礎看護学実習、そして、さまざまな発達の段階や健康の段階の対象者に対応する3年次の専門領域看護学実習につなげます。さらに4年次には既存の学びを統合し、主体的に看護が実践できる統合実習を設定しています。 6. 宮崎県の地域特色を活かした教育・研究・地域貢献を推進するため、地域の理解と課題解決に取り組む科目を設定しています。 7. 保健師免許取得を希望する学生のために公衆衛生看護学を履修するための科目を設定しています。（選抜制）。 8. 養護教諭二種免許（保健師免許取得後）を申請できるように、教養教育科目に教育免許法施行規則に定められた科目を設定しています。 【教育内容・方法】 1. 各授業科目について、ディプロマ・ポリシーに従い、到達目標、授業計画、成績評価基準、学習方法を明示し、周知します。 2. 教養教育カリキュラムでの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学び

を実践できるようにする。

3. 専門教育において、知識・技能、理論・実践を融合し、主体的に考える力を養うために講義、演習、実験、実習等の多様な教育方法を取り入れた指導を行います。

4. 学内の講義・演習の学びを臨地実習で統合実践し、看護学生として対象者に学び、成長できる支援体制を整備し、教育・指導を行います。

5. 学士課程において、地域の理解を深めるため、学外での実習等を取り入れ、地域の課題を理解し、対応できるように教育します。

【学修成果の評価】

1. GPA制度を導入し、教育効果を点検・評価し改善を行います。

2. 多様な成績評価基準に基づき厳格に評価を行います。

3. 学生は自己の学修を振り返り、自己を評価し、教員はこの自己評価に基づいて指導します。

4. ディプロマ・ポリシーに基づき、学修成果の評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departments-exam/educational-policy.html>）

（概要）

看護学科では、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目標としています。

1. 求める学生像

看護学科では看護職者になろうという目的意識と看護学を学ぶために必要な基礎学力（知識・技能）を有し、生活している人々の身体的・精神的健康への関心（学問への関心）、自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と行動力（主体性）、他者への共感と円滑なコミュニケーション能力（協調性・思考力・表現力）を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる学習意欲の高い人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

選抜区分	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。
学校推薦型選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的でかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

求める能力や適性等 選抜区分		知識・技能	主体性 学問への関心	協調性 思考力 表現力
前期日程	共通テスト	◎		
	面接		◎	○
後期日程	共通テスト	◎		
	小論文		○	◎
	面接		◎	○
学校推薦型選抜	共通テスト	◎		
	小論文		○	◎

	面接		◎	○
--	----	--	---	---

4. 入学までに身に付けてほしいこと

入試科目として課しているかどうかにかかわらず国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。

また、国際化の時代にあって、海外から看護の知識を導入し、わが国の看護の成果を発信していくためにも国際語である英語を学習する必要がある。

学部等名 工学部工学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）
（概要） 工学部は、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、今後ますます進展する高度な科学技術に挑戦し、創造することができる人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
（概要） 工学部工学科では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位（学士号）を授与します。 1. 工学技術者としての高い意識を持ち、人類の文化、社会、自然、及び専攻する学問分野における知識を理解し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
【教育課程の編成】 1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成します。 2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語(外国語コミュニケーションを含む))、課題発見科目(データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系)と未来共創科目を設置します。 3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、プログラム・課程専門科目を設置します。 4. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置します。 5. 工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、工学技術者として必要な倫理・規範や責任を判断できる能力を養成する科目を設置します。 6. 専門分野に深い興味を持ち、自学自習による自発的な学習能力を養成する科目を設置します。 7. 日本語による論理的な記述、口頭発表及び討論ができ、かつ基礎的な工学英語を使ったコミュニケーション能力を養成する科目を設置します。 8. 身につけた専門知識を課題の発見や探求に利用し、更に課題解決へ応用できるデザイン能力を養成する科目を設置します。 9. 自然科学やデータサイエンス、並びに専門領域に対する基礎知識を身につけた人材を育成し、グローバルな視点から多面的に物事を考える能力を養成する科目を設置します。 【教育内容・方法】 1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知します。 2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにします。 3. 専門教育において、協調性、自己表現能力、主体的に考える力、知識・理論と実践を融合し問題解決に応用する力を養うために、講義、演習、実験、実習などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行います。

4. 学士課程教育において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を实践できるようにします。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表します。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行います。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析します。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価します。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行います。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

1. 求める学生像

工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性が豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身に付け、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。そこで、以下に示す「入学後の学修に必要な能力・適性」を多面的かつ総合的な評価手法によって選考し、受け入れます。

- 1) 工学技術者を目指し、地域社会や国際社会の発展に貢献する意欲がある人（主体性）
- 2) 自ら考え、主体的に学修する目的意識を有する人（主体性）
- 3) 大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な協調性及びコミュニケーションの基本的なスキルを身に付けた人（協働性、表現力）
- 4) 工学における多様な分野にも興味を持ち、創造性豊かな技術力と問題発見・解決能力を身に付けて社会に貢献する意欲のある人（学問への関心、思考力）
- 5) 工学専門分野を修得できる基礎学力を有する人（知識・理解、思考力）

2. 入学者選抜の基本方針

選抜区分	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。
学校推薦型選抜 総合型選抜＜一般枠＞	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的かつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。
総合型選抜＜私費外国 人留学生枠＞	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

選抜方法		知識・技能	思考力 表現力	主体性 協調性 学問への関心
前期日程・後期日程	共通テスト	◎	○	
	個別学力検査	○	◎	
	主体性評価			◎
総合型選抜＜一般 枠＞	筆記試験	◎		
	小論文		◎	○
	面接	○	○	◎
	提出書類	○	○	◎
学校推薦型選抜	筆記試験	◎		
	小論文		◎	○
	面接	○	○	◎
	提出書類	○	○	◎
総合型選抜＜私費 外国人留学生枠＞	日本留学試験	◎	○	
	小論文	○	◎	

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高校で履修した科目に関する基礎学力について十分な深達度を得ていることが望まれる。さらに、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれる。

学部等名 農学部植物生産環境科学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）
（概要） 植物生産環境科学科では、安全・安心な農産物の安定的・持続的供給を行うための農学全般について学びます。また、自然循環機能や天敵を利用した環境保全型農業、環境調和型雑草防除、植物工場、農業の機械化や労働環境の改善、農地整備や灌漑利水、農業経営・経済などに関する専門科目についても実験・実習を交えながら学びます。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html ）
（概要） 農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。
学 部（全学科に共通する部分） 1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 （1）倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。 （2）チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。 （3）多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。 2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 （1）言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 （2）他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 （1）情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。 （2）問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。
植物生産環境科学科 5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。 （1）文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。 （2）農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 （3）植物生産に関する基礎的・応用的知識：植物生産に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 （4）生産環境に関する基礎的・応用的知識：生産環境に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 （5）環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識：環境調和型農業に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 （6）植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力および指導力：植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力および指導力を有し、社会で活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

植物生産環境科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - （1）安全・安心な農産物の安定的・持続的供給を行うための農学全般に関する科目
 - （2）自然循環機能を活かした環境保全型・調和型農業に関する科目
 - （3）農作物の栽培環境の改善、品種改良、成分分析、病虫害の診断・防除など、植物生産に関する科目
 - （4）農業の施設化・機械化や労働環境の改善、農地整備、農業経営・経済など、生産環境に関する科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを实践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を实践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。

4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

植物生産環境科学科では、農学に関する基礎知識、植物生産、生産環境、並びに環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識、専門分野に関する国際的視点、社会貢献力および指導力を身に付けた人材の育成を目標としています。

（１）求める学生像

植物生産環境科学科では、農学に関する基礎知識の修得や安全・高品質な農・園芸作物の安定供給、生産環境の改善、環境調和型農業の実現に対して熱意を持って取り組み、植物生産環境科学分野における課題解決能力をもち、学修を通して獲得した国際的視点、知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる人材の育成を目標としています。

そこで、植物生産環境科学科では次のような人材を求めています。

1. 自然環境に配慮した農業生産や自然科学に対する関心をもっている人（学問への関心）
2. 大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科の基礎学力をもっている人（知識・理解）
3. 自然科学をはじめ、世の中の様々な事柄をよく観察して深く考察し、それを表現する力をもっている人（思考力、表現力）
4. 学業をはじめ、学校内外の活動に、積極的に取り組むことができ、国際的な視野と責任感をもっている人（主体性）
5. 学業や学校内外の活動をはじめ、様々な場面において、他者との協力を厭わない人間性をもっている人（協働性）

（２）入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学修で必要となる発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

調査書によって、学問への関心、主体性、協働性について評価します。

2)学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では学問への関心、知識・理解、思考力、主体性、協働性について評価します。

書類審査では調査書、推薦書、志望理由書を審査します。それによって、学問への関心、知識・理解、表現力、主体性、協働性について評価します。

3)帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、小論文、面接、出願書類によって、学問への関心、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性を評価します。

4)社会人選抜

社会人に対し、面接、出願書類によって、学問への関心、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性を評価します。

5)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、面接、出願書類によって、学問への関心、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性を評価します。

(3) 入学までに身に付けて欲しいこと

理科、数学、英語以外にも、国語や社会など、高校で履修する教科・科目について偏りなく勉強しておく必要があります。また、主体性、協調性など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部森林緑地環境科学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

(概要)

森林緑地環境科学科では、森林・農山村・都市域を、相互に作用し合う一つの連続した空間として捉えます。人間活動と自然をつなぐ複合的な新しい学際領域です。その連続した空間における自然環境の保全と安全で快適な生活環境の形成、および生物資源の高度な利活用を視野にいれ、森林緑地の恩恵（機能）の解明とそれに基づく技術の確立を目指して教育・研究を行います。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。

学 部（全学科に共通する部分）

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
 - (1) 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
 - (2) チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。
 - (3) 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。
2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
 - (1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 - (2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
 - (1) 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
 - (2) 問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。

森林緑地環境科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
 - (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - (3) 森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力：森

林・緑地の機能に関する広い知識を修得し、国内外の諸課題に対応できる。 (4) 自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識：自然環境や国土の保全、水資源の安定的な利用など、安全で持続可能な国土づくりに寄与できる。 (5) 樹木・菌類、非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識：樹木・菌類、非生物材料等の特性を深く理解し、適切に活用することができる。 (6) 多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力：自然環境と生物資源利用の調和を目指した森林緑地管理を計画・実行できる。 (7) 環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力：環境と調和した材料の開発や緑化を实践できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html）
（概要） 森林緑地環境科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【教育課程の編成】 1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。 2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。 3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。 4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。 5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。 6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。 7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。 8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。 9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。 10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。 (1) 森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や問題解決能力を修得するための科目 (2) 自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識を修得するための科目 (3) 樹木・菌類、非生物材料等の特性に関する基礎的・応用的知識を修得するための科目 (4) 多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力を修得するための科目 (5) 環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を修得するための科目 【教育内容・方法】 1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。 2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを实践できるようにする。

3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departments-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

森林緑地環境科学科では森林や農山村・都市・海岸域を含めた緑地の機能を探求し、持続的な農林業、豊かな自然環境、そして快適な生活環境との調和を目指した教育研究を行います。

（１）求める学生像

森林緑地環境科学科では、森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力、自然環境や国土保全及び水資源利用に関する基礎的・応用的知識、樹木・菌類及び非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識、多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力、環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、森林緑地環境科学科では次のような人材を求めています。

1. 森林・緑地の諸問題の解決に向けて熱意を持って自ら取り組む人（主体性）
2. 森林・緑地に関連する自然科学と社会現象に幅広い興味と探究心を有する人（学問への関心）
3. 環境問題をはじめ、世の中の様々な事柄をよく観察して深く考察し、その結果を表現する力を有する人（思考力、表現力）
4. 大学での学修の基盤となる幅広い知識や言語力、森林・緑地に関する基礎学力を有する人（知識・理解）
5. 様々な活動において他者と協力しながら課題解決を図るとともに、自らの能力を社会の一員として地域・世界に還元する情熱と責任感を有する人（協働性）

（２）入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学修で必要となる発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

2)学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では主体性、知識・理解、思考力、学問への関心、協働性について評価します。

書類審査では調査書、推薦書、志望理由書を審査します。それによって、主体性、知識・理解、学問への関心、表現力、協働性について評価します。

3)総合型選抜

高等学校での学業成績が優秀なだけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、書類審査（調査書、自己推薦書、活動報告書）、模擬講義等の受講及びレポートの作成及び個人面接によって多様な能力を総合的に判断します。

調査書では、知識・理解、主体性、協働性について評価します。

自己推薦書及び活動報告書では、主体性、協働性、学問への関心について評価します。模擬講義の受講及びレポート作成では、思考力、表現力、学問への関心について評価します。

個人面接では、主体性、協働性、思考力、表現力、学問への関心について評価します。

4)帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、小論文、面接、出願書類によって、思考力、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心の評価します。

5)社会人選抜

社会人に対し、面接と出願書類によって、知識・理解、主体性、協働性、思考力、表現力、学問への関心の評価します。

6)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、面接、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、協働性、主体性、学問への関心の評価します。

（３）入学までに身に付けて欲しいこと

理科、数学、英語以外にも、国語や社会など、高校で履修する教科・科目について偏りなく勉強しておく必要があります。また、大学での学修効果を高め、充実した学生生活を送るために、自ら興味を深め課題を発見する姿勢や、多様な意見を聞きながら多くの人と協力して課題解決をはかる態度も、あわせて身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部応用生物科学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/> ）

（概要）

「生命・食料・環境問題を解決するために生物や食品に潜む機能をいかに活用するか」というテーマを中心に課題探求型教育研究システムを用意しています。1、2年次では教養教育と並行して生物学や化学などの専門基礎科目を徹底して学習します。専門教育では生命・食料・環境を網羅する各分野の専門講義および実験を履修します。本学科は、生物工学や食品関連分野における幅広い知識と先端技術の習得を目標に教育を行います。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。

学 部（全学科に共通する部分）

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使用し、社会の発展のために積極的に関与できる。

（１）倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。

（２）チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。

（３）多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。

2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。

3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
- (1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 - (2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
- (1) 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
 - (2) 問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。

応用生物科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - (3) 数学および自然科学に関する基礎知識：数学および化学、生物などの自然科学について理解し、応用できる。
 - (4) 応用生物科学に関する知識：応用生物化学・微生物機能開発学・植物機能科学・食品科学・動物資源科学の5分野に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
 - (5) 技術者の社会的責任に関する理解：応用生物科学の知識・技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者として必要な責任ある判断と行動について考えることができる。
 - (6) 制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力：応用生物科学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>)

（概要）

応用生物科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題

解決に取り組む科目を設置する。

9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。

10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。

- (1) 化学、生物、数学を主とする自然科学および情報技術に関する基礎的知識を修得するための科目
- (2) 応用生物科学に関する専門知識とそれらを問題解決に応用できる能力を修得するための科目
- (3) 社会貢献を意識し、応用生物科学に関連する知識・技術が社会と環境に及ぼす影響を理解すると共に、技術者の社会的責任を理解するための科目
- (4) 課題解決のための筋道をデザインし、与えられた制約の下で自立的・計画的に仕事を進め、期限内にまとめる能力を修得するための科目
- (5) 応用生物科学分野における課題に関する情報収集力、記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を修得するための科目
- (6) 応用生物科学分野に関連する社会の変化に柔軟に対応するために、継続的、自発的に学ぶ学習態度を修得するための科目
- (7) チームで仕事をすることの重要性を理解し、適切に行動できる能力を修得するための科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>)

（概要）

応用生物科学科では、農学に関する基礎知識、数学および自然科学に関する基礎知識、応用生物科学に関する知識、技術者の社会的責任、制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力を身に付けた人材の育成を目標としています。

（1）求める学生像

応用生物科学科では動植物や微生物がもつ機能やその利用を化学的視点で思慮すること

ができる、生物機能や食品機能に関する諸問題を論理的に考察できる、バイオサイエンス分野における課題解決能力と倫理観を有する、高いコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を有する、また、バイオサイエンス分野の先端的・独創的科学技术を応用して地域・国際社会に貢献できる人材の育成を目標としています。

そこで、応用生物科学科では次のような人材を求めています。

1. 化学をはじめとする自然科学に対して強い興味と探究心をもっている人（学問への関心）
2. 化学や生物などの理科（自然科学）や数学、英語などの基礎学力を備えている人（知識・理解）
3. 自然科学をはじめ、世の中の様々な事柄をよく観察して深く考察し、それを表現する力をもっている人（思考力、表現力）
4. 学業をはじめ、学校内外の活動に、積極的に取り組もうとする人（主体性）
5. 学業や学校内外の活動をはじめ、様々な場面において、他者との協力を厭わない人間性をもつ人（協働性）

（２）入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学修で必要となる理数系科目についての発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

2)学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では主体性、知識・理解、思考力、学問への関心、協働性について評価します。

書類審査では調査書、推薦書、志望理由書を審査します。それによって、主体性、知識・理解、学問への関心、表現力、協働性について評価します。

3)帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、小論文、面接、出願書類によって、思考力、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心、協働性を評価します。

4)社会人選抜

社会人に対し、面接、出願書類によって、知識・理解、主体性、協働性、思考力、表現力、学問への関心の評価します。

5)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、面接によって、知識・理解、思考力、表現力、協働性、主体性、学問への関心の評価します。

（３）入学までに身に付けて欲しいこと

理科（特に化学・生物）、数学、英語以外にも、国語や社会など、高校で履修する教科・科目について偏りなく学習しておく必要があります。また、主体性、協働性など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部海洋生物環境学科

教育研究上の目的（公表方法）

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>（ ）

（概要）

海洋は地球の環境を和らげ、生物資源に満ちています。このような水圏環境について深く学び、生物の多様性と利活用を理解・修得することによって、広く人類の未来について思索し、地域ばかりなく、国際社会に通用する教育・研究を行うことを目的としています。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。

学 部（全学科に共通する部分）

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
 - （1）倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
 - （2）チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。
 - （3）多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。
2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
 - （1）言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 - （2）他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
 - （1）情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
 - （2）問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。

海洋生物環境学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
 - （1）文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - （2）農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - （3）水圏（生物と環境）に関する専門的基礎知識と専門的知識の応用力：水圏（生物と環境）に関する専門的基礎知識を有し、その知識を社会で応用できる。
 - （4）環境と食糧生産の諸問題に関する分析力：環境と食糧生産の諸問題を、データを基に分析できる。
 - （5）環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する能力：分析した環境と食糧生産の諸問題を、解決に導くための貢献ができる。
 - （6）専門分野における地域社会や国際社会で活躍できる能力：専門分野における地域社会や国際社会で、他と協力し活躍できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

海洋生物環境学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データーリテラシー、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 情報収集能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を修得するための科目
 - (2) 水域生物の生理、生態、遺伝、分類、資源利用、水族の疾病、水域環境の保全に関する科目
 - (3) フィールド体験や実験実習を通して、海洋をはじめとした生物の生息水域における生物資源の生産、利用、管理および環境の保全に関する科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departament-exam/educational-policy.html>)

(概要)

海洋生物環境学科では、農学に関する基礎知識、水圏に関する専門的基礎知識と専門的知識を応用できる能力、環境と食糧生産の諸問題に関する分析力、環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する力、地域社会や国際社会で活躍できる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

(1) 求める学生像

海洋生物環境学科では、農学に関する基礎知識、水圏に関する専門的基礎知識と専門的知識を応用できる能力、環境と食糧生産の諸問題に関する分析力・解決能力、特に海洋環境学分野における課題解決能力を重視し、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を海洋環境学分野の技術者として社会に還元することのできる人材の育成を目標としています。更に地域社会や国際社会で活躍できる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、海洋生物環境学科では次のような人材を求めています。

1. 海洋生物や水圏環境の保全、水域生物の生産・利活用、水族の生理機能に深い興味を有している人（学問への関心）
2. 海洋環境と生物生産の諸問題の解決に熱意をもって取り組むことができる人（主体性）
3. 実験や観察において深く考察し、その結果を表現する力がある人（思考力、表現力）
4. 大学での学修の基盤となる幅広い知識や自然科学に関する基礎学力を有する人（知識・理解）
5. 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる人（協働性）

(2) 入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学修で必要となる発展的な学力について、大学入学共通テスト、個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

2)学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では、表現力、主体性、学問への関心及び思考力を評価します。

書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、協働性を評価します。

3)帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、面接と小論文、出願書類によって、表現力、主体性、学問への関心、思考力及び協働性、知識・理解を評価します。

4)社会人選抜

社会人に対し、面接と出願書類によって、表現力、主体性、学問への関心、思考力及び協働性、知識・理解を評価します。

5)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心、思考力及び協働性を評価します。

(3) 入学までに身に付けて欲しいこと

高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、海洋環境、海洋生物生産・増殖などの自然科学については、本を読むなどして知識を深めてください。また、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために、主体性、協働性、表現力などもあわせて身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部畜産草地科学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）
（概要） 低コスト・低労力化のもとで、限られた自給飼料のリサイクルに基盤をおいた畜産に関する基礎的、応用的な知識を身につけるばかりでなく、食料や飼料 自給率の向上、自然・社会環境の調和を目指しながら、 国内外の「食料・農業・農村」をめぐる諸課題 の解決にも貢献できる人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html ）
（概要） 農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。
学 部（全学科に共通する部分） 1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 （1）倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。 （2）チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。 （3）多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。 2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 （1）言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 （2）他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 （1）情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。 （2）問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。
畜産草地科学科 5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。 （1）文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。 （2）農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 （3）草地・飼料の基礎的・応用的知識・技能：草地・飼料に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。 （4）家畜の基礎的・応用的知識・技能：家畜に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。 （5）資源・環境の基礎的・応用的知識・技能：資源・環境に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。 （6）食料・畜産業・農村の基礎的・応用的知識・技能：食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。 （7）専門分野に関する国際性と課題解決能力：専門分野に関する国際性と課題解決能

力を有し、社会で活用できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
（概要） 畜産草地科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【教育課程の編成】 1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。 2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。 3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。 4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。 5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。 6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。 7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。 8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。 9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。 10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。 （1）家畜の合理的な生産や福祉に関する知識を修得するための科目 （2）飼料となりうる資源の開発やその活用に関する知識を修得するための科目 （3）草地・放牧の適切な管理などに関する知識を修得するための科目 （4）家畜の体の仕組み、病気の予防や公衆衛生、畜産食品製造などに関する知識を修得するための科目 （5）その他、畜産業に関する実践的知識・技能を修得するための科目 【教育内容・方法】 1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。 2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。 3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。 4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。 【学修成果の評価】 1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。 2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。 3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係

わる情報を適切に収集・分析する。 4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。 5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。 6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html） （概要） 全国から動植物に興味のある学生が集まり、自給飼料に立脚した家畜生産や、安全で美味しい畜産物を食卓に提供するための研究を行っています。対象となる分野は幅広く、野生生物・環境保全の場としての草地生態、遺伝資源利用、地球環境の保全、フードチェーンにおける衛生管理等多岐に渡ります。 （1）求める学生像 畜産草地科学科では、農学に関する基礎知識、草地・飼料、家畜、資源・環境及び食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能、専門分野に関する国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。 そこで、畜産草地科学科では次のような人材を求めています。 1. 動植物に対する幅広い興味や関心を有する人（学問への関心） 2. 大学での学修の基盤となる幅広い知識や生物、化学に関する基礎学力を有する人（知識・理解） 3. 実験や観察において深く考察する能力を有し、その結果を表現する力をもっている人（思考力、表現力） 4. 資源循環、環境の保全、家畜の福祉などに配慮した持続的な畜産業の構築に熱意をもって取り組むことのできる人（主体性） 5. 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元できる資質を有する人（協働性） （2）入学者選抜の基本方針 1)一般選抜（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学修で必要となる発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。 調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。 2)学校推薦型選抜 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、協働性、学問への関心について評価します。 書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心进行评估します。 3)帰国生徒選抜 帰国生徒に対し、面接、小論文、出願書類によって、表現力、主体性、協働性、学問への関心、知識・理解、思考力を評価します。 4)社会人選抜 社会人に対し、面接と出願書類によって、主体性、協働性、学問への関心、知識・理解、思考力、表現力を評価します。 5)私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性、学問への関心进行评估します。

(3) 入学までに身に付けて欲しいこと 生物、化学、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部獣医学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）
（概要） 獣医学は動物の疾病の予防・診断・治療のための学問として発達してきましたが、生活の多様化や高度化に伴い、研究分野は動物の保健の向上のみならず、公衆衛生、医薬品開発、動物愛護、環境保全など、広範囲にわたる生命科学の重要な一翼を担っています。獣医学科は広範な分野で高度な専門性を発揮できる獣医師、さらに動物医学を基本とした幅広い応用能力を身につけ、高い実践能力を備えた人材の育成を目指しています。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
（概要） 農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（獣医学）の学位を与える。 学 部（全学科に共通する部分） - 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 - 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。 - チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。 - 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。 - 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 - コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 - 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 - 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 - 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 - 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。 - 問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。 獣医学科 - 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。 - 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。 - 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 - 獣医専門知識：獣医師としての専門知識を有し、社会で活躍できる。 - 獣医的倫理観：獣医師としての正しい倫理観を有し、社会で活躍できる。 - 獣医的応用・実践・開拓力：獣医専門知識を生かして、応用・実践・開拓ができ

る。 (6) 地域・国際社会への貢献能力：獣医専門知識を生かして、地域や国際社会へ貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
（概要） 獣医学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【教育課程の編成】 1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。 2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。 3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。 4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。 5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。 6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。 7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。 8. 実践的な能力を深化させるために、共用試験に合格することをもって受講できる参加型臨床科目を設置する。 9. 進路を見据えて、より高度な専門的な知識を取得するために、アドバンス科目を設置する。 10. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。 11. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。 12. 獣医師国家試験の受験資格を修得できるように、6年間を通じ以下の内容を含む授業科目を体系的に配置する。 (1) 動物の体のしくみや機能に関する知識や技能を修得するための科目 (2) 動物の病気のなりたちや感染症に関する知識や技能を修得するための科目 (3) 公衆衛生ならびに動物の衛生管理や福祉に関する知識と技能を修得するための科目 (4) 動物の繁殖や栄養学に関する知識と技能を修得するための科目 (5) 病気の診断・治療・予防法に関する知識と技能を修得するための科目 【教育内容・方法】 1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。 2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを实践できるようにする。 3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。 4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を实践でき

るようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

（１）求める学生像

獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、獣医学科では、次のような人材を求めています。

1. 自然科学に対する幅広い興味や関心を有している人（学問への関心）
2. 学修の基盤となる幅広い知識や理科、数学、語学に関する基礎学力をもっている人（知識・理解）
3. 自然科学をはじめ、様々な事柄をよく観察して深く考察し、それを表現する力がある人（思考力、表現力）
4. ヒトの動物の健康ならびに福祉の向上に必要な高度な専門知識の修得に対して主体的に取り組むことができる人（主体性）
5. 学業や学校内外の活動をはじめ、様々な場面において、他者との協力を厭わない人間性をもつ人（協働性）

（２）入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学修で必要となる理数系科目についての発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

また、調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

2)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、協働性、主体性、学問への関心进行评估します。

（３）入学までに身に付けて欲しいこと

高等学校で履修する教科・科目について偏りなく勉強しておく必要があります。また、主体性、協働性など大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学部等名 地域資源創成学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）
（概要） 地域資源創成学部では、マネジメントの専門知識と社会・人文科学、及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識を教授する異分野融合のカリキュラムを構築するとともに、研究者教員と実務家教員とが協働した実践的教育、宮崎県全域をフィールドとした実習や国内・海外インターンシップによる地域の方々と一体となった協働教育を導入します。このような教育により、地域の製造業、食品・醸造業、マスコミ、観光、サービス業、国・自治体、経済団体の幹部候補や、事業承継者、起業家などに必要な知識・技能を教授します。これにより、持続可能な地域づくりを包括的にマネジメントでき、地域資源を理解し利活用しつつ、ビジネス・地域産業、行政などの現場で、革新的な価値を創出できる人材の輩出を目指します。その上で、地域資源創成学部の OB・OG を核として地域の産学官の人的ネットワークを形成し、地域の持続的発展に末永く貢献していくことを究極の目標とします。 企業マネジメントコースでは、国内外の産業経済構造を俯瞰的に捉え、地域の社会経済状況を調査・分析し、その知見をもって、国内市場や海外市場の開拓やリンケージ構築、企業誘致、起業等、地域経済の発展に向け、既存の産業に新たな価値創造（イノベーション）を引き起こし、地域の産業振興に寄与する次世代のビジネスリーダーを養成します。 地域産業創出コースでは、地域資源（農業・自然・文化等）の価値を理解し、地域資源を活用した新商品の企画、ビジネスの新展開、様々な切り口からの地域資源の魅力発信等を通じて地域資源に新たな価値を見出し、6次産業化や観光等の地域の産業創出につなげることができる人材を養成します。 地域創造コースでは、中山間地域における過疎・高齢化、中心市街地衰退等の課題解決や、地域社会の維持発展に向けて、地域における住民の組織やネットワーク、行政制度等について理解するとともに、地方都市・農山村の経済機能、社会機能、環境機能を総合的に捉え、地域活動を有機的に連結し、活性化できる持続可能な地域づくりをトータルマネジメントできる人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html ）
（概要） 本学部は、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけ、かつ、卒業研究の審査に合格した学生に対して卒業を認定し、学士（地域資源創成学）の学位を与える。 1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 (1) 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。 (2) チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。 (3) 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。 2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 (1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 (2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 (1) 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。 (2) 問題解決力：人々と広く協働し、地域の資源や状況をよく理解・分析することで問題

解決に導くことができる。

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。

- (1) 地域資源創成のために必要なマネジメントの専門知識を有している。
- (2) 地域資源創成のために必要な社会・人文科学、及び農学・工学の利活用技術の基礎知識を有し 複眼的な視野から地域資源の価値を捉えることができる。
- (3) 以下のいずれかの人材養成像に対応した、地域資源を活用し、新たな価値を創成する企画力・実践力を有している。

【企業マネジメントコース】

国内外の産業経済構造を俯瞰的に捉え、地域の社会経済状況を調査・分析し、その知見をもって、国内市場や海外市場の開拓やリンケージ構築、企業誘致、起業等、地域経済の発展に向け、既存の産業に新たな価値創造（イノベーション）を引き起こし、地域の産業振興に寄与する次世代のビジネスリーダーを養成する。

【地域産業創出コース】

地域資源（農業・自然・文化等）の価値を理解し、地域資源を活用した新商品の企画、ビジネスの新展開、様々な切り口からの地域資源の魅力発信等を通じて地域資源に新たな価値を見出し、6次産業化や観光等の地域の産業創出につなげることができる人材を養成する。

【地域創造コース】

中山間地域における過疎・高齢化、中心市街地衰退等の課題解決や、地域社会の維持発展に向けて、地域における住民の組織やネットワーク、行政制度等について理解するとともに、地方都市・農山村の経済機能、社会機能、環境機能を総合的に捉え、地域活動を有機的に連結し、活性化できる持続可能な地域づくりをトータルマネジメントできる人材を養成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

地域資源創成学部では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げた、地域における新たな成長産業の振興及び地域活性化を企画・実践できる実務的素養を身につけた人材の育成を目的とするため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、教育を実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養科目と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成します。
2. 基本的な学習能力の獲得と文理横断的な教育課程の編成のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、専門接続系）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）と未来共創科目（構想・デザイン系、協働・創造系）を設置します。
3. 専門的な方法論と知識習得のため、専門基礎科目と専門科目を実践実習・専門分野教育の両面から体系的・段階的に設置します。
4. マネジメント力を養成するために必要な科目と、地域の課題や地域資源の価値を複眼的な視点から捉える能力を養成するために「企業マネジメント」、「地域産業創出」、「地域創造」の3つの科目群に分けて、社会・人文科学、及び農学・工学の科目を設置します。
5. 英語での論理展開、ビジネス交渉ができるコミュニケーション能力を修得するための英語科目を設置します。
6. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置します。
7. 獲得した知識や能力を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく実践的

な能力や態度を育成するために、演習・実習・卒業研究等の科目を設置します。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知します。
2. 教養教育において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを实践できるようにします。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を育成するために、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）、演習・実践を積極的に取り入れた多様な授業形態、指導を行います。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を实践できるようにします。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
5. 学生が学修目標の達成状況についてエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>）

（概要）

地域資源創成学部では、地域資源を活用し新たな価値を創成する企画力・実践力の育成を図り、地域の活性化に不可欠なイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、実社会で即戦力として活躍できる人材の輩出を目標としています。

1. 求める学生像

地域資源創成学部では地域振興に対して熱意（学問への関心）を持って取り組み、社会科学および自然科学に対する基礎学力（知識・技能）を有し、コミュニケーション能力・表現力と思考力・判断力を持つ人、また学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる強い意思を持った人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程）

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。選抜方法については、大学入学共通テストと総合問題によって、知識・技能、思考力、表現力について総合的に評価します。特に、大学入学共通テストにおいては知識・技能に比重を置き、総合問題においては思考力、表現力に比重を置いています。また、主体性評価として、調査書、自己申告書によって、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心进行评估します。

2) 一般選抜（後期日程）

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。選抜方法については、大学入学共通テストと小論文によって、知識・技能、思考力、表現力を総合的に評価します。特に、大学入学共通テストにおいては知識・技能に比重を置き、小論文においては思考力、表現力に比重を置いています。面接では、主体性、コミュニケーション能力、学問への関

心进行评估します。

3) 学校推薦型選抜

一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的でかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。選抜方法については、小論文、面接によって多様な能力を総合的に判断します。

小論文では、知識・技能、思考力、表現力について評価します。面接においては、提出書類を踏まえて、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心进行评估し、なかでも主体性、コミュニケーション能力、学問への関心に比重を置いています。

4) 総合型選抜（私費外国人留学生枠）

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。選抜方法については、日本留学試験、小論文、提出書類を踏まえた面接によって、知識・技能、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を総合的に評価します。日本留学試験においては知識・技能、思考力、表現力进行评估し、なかでも知識・技能に比重を置いています。小論文においては知識・技能、思考力、表現力进行评估します。面接においては、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心进行评估し、なかでも主体性、コミュニケーション能力学問への関心に比重を置いています。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、科目を越えて地域を捉える姿勢、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/system/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	9 人	—					9 人
教育学部	—	17 人	22 人	13 人	0 人	0 人	52 人
医学部	—	51 人	33 人	14 人	94 人	3 人	195 人
工学部	—	43 人	38 人	0 人	16 人	0 人	97 人
農学部	—	46 人	42 人	1 人	15 人	0 人	104 人
地域資源創成学部	—	10 人	14 人	5 人	1 人	0 人	30 人
教職大学院	—	10 人	4 人	0 人	0 人	0 人	14 人
大学院地域資源創成 学研究科	—	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人
附属病院	—	7 人	6 人	22 人	115 人	1 人	151 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0 人			236 人				236 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://srhumdb.miyazaki-u.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	140人	151人	107.9%	500人	547人	109.4%	0人	0人
医学部	160人	161人	100.6%	870人	917人	105.4%	0人	0人
工学部	370人	370人	100.0%	1,500人	1,538人	102.5%	20人	19人
農学部	265人	273人	103.0%	1180人	1,257人	106.5%	0人	0人
地域資源創成 学部	90人	91人	101.1%	360人	385人	106.9%	0人	0人
合計	1,025人	1,047人	102.1%	4,210人	4,644人	110.3%	20人	19人
（備考）収容定員・在学生数は、編入学を含む								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	118 人 (100%)	22 人 (18.6%)	95 人 (80.5%)	1 人 (0.9%)
医学部	167 人 (100%)	6 人 (3.6%)	51 人 (30.5%)	110 人 (65.9%)
工学部	350 人 (100%)	194 人 (55.4%)	150 人 (42.9%)	5 人 (1.4%)
農学部	265 人 (100%)	72 人 (27.2%)	175 人 (66.0%)	10 人 (3.8%)
地域資源創成 学部	84 人 (100%)	2 人 (2.4%)	81 人 (96.4%)	0 人 (0%)
合計	984 人 (100%)	296 人 (30.1%)	651 人 (66.2%)	27 人 (2.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
「シラバス作成のためのガイドライン (シラバス作成要領)」(令和3年10月21日宮崎大学教育委員会決定)に基づき、シラバスを作成している。授業開始前に、授業科目に関する基本情報、授業の目標に関する情報、授業内容・方法に関する情報、成績評価に関する情報、教材に関する情報、教員に関する情報、履修に関する情報を記載したものを作成し、学生に周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 成績評価を受ける出席要件は、授業回数の 75%以上（医学部では3分の2以上）としている。成績評価基準と成績評価方法は、キャンパスガイド及びシラバスを通して学生に周知し、学期の初回の授業時にも説明している。シラバスに明記された成績評価基準・評価方法に従って、授業への取組状況、レポート、中間テスト、最終試験等の組み合わせにより成績評価を行い、単位を認定している。 本学の教育方針として、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）の点検・評価項目の一つに「GPA 制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行う」と定めている。本学では、学生が学習・教育目標を高いレベルで達成するため、学修支援システムの一つである「学習カルテ：履修システム」に GPA を導入し、学生自ら自分の GPA を確認できるようにしている。また、本学では、医学部を除き履修登録に上限を設定し、キャンパスガイド等で周知している。 宮崎大学学務規則で卒業認定基準を定めており、本学の教育理念に基づいたディプロマ・ポリシーを策定・公表している。学科等で卒業判定を行い、最終的に学部教授会で卒業に必要な単位数を満たしているか等を確認し、卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育課程	2019年度以降入学 137 単位 2018年度以前入学 136 単位	有・無	単位
医学部	医学科	2020年度以降入学 239 単位 2019年度以前入学 243 単位 2022年度以降入学 233 単位	有・無	単位
	看護学科	2021年度以前入学 129 単位 2022年度以降入学 131 単位	有・無	単位
工学部	環境応用化学科	128 単位	有・無	単位
	社会環境システム 工学科	128 単位	有・無	単位
	環境ロボティクス 学科	128 単位	有・無	単位
	機械設計システム 工学科	128 単位	有・無	単位
	電子物理工学科	128 単位	有・無	単位
	電気システム 工学科	128 単位	有・無	単位
	情報システム 工学科	128 単位	有・無	単位
	工学科	128 単位	有・無	単位
農学部	植物生産 環境科学科	128 単位	有・無	単位
	森林緑地 環境科学科	128 単位	有・無	単位
	応用生物科学科	128 単位	有・無	単位
	海洋生物環境学科	128 単位	有・無	単位
	畜産草地科学科	128 単位	有・無	単位
	獣医学科	2022年度入学 194 単位	有・無	単位

		2021 年度以前入学 195 単位		
地域資源創成学部	地域資源創成学科	2017 年度～ 2020 年度入学 130 単位 2021 年度以降入学 128 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/place/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部		535,800 円	282,000 円	17,000 円	その他は検定料
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 「学習カルテ：履修システム」を活用した学習指導を行っている。「学習カルテ：履修システム」は本学が独自に開発したシステムであり、学生自らディプロマ・ポリシーに係わる自己の学習の到達度、登録単位、修得単位、GPA、授業科目毎の成績分布を確認し、学習の振り返りを行うことができるようになっている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリア支援と就職支援の2つの支援体制をとっている。キャリア支援では、インターンシップの支援を行っている他、大学独自のキャリア支援として学生の企画力や運営・実施能力を育成することを目的とした「とっても元気！宮大チャレンジプログラム」を実施している。就職支援では、就職ガイダンス、個別に応じた就職相談、大学独自の会社説明会、企業・官公庁訪問の職場見学ツアーなどを行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 安全衛生保健センターで急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っている。また、実験・研究中や作業中の事故を防止するための啓発活動や各種安全マニュアルの策定等も行っている。また、学生が学生生活を送る上での様々な問題について相談に応じるため、「学生なんでも相談室」を開設している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F145110111523
学校名（〇〇大学 等）	宮崎大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	国立大学法人宮崎大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		501人	484人	—
内 訳	第Ⅰ区分	282人	291人	
	第Ⅱ区分	140人	126人	
	第Ⅲ区分	79人	67人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				—
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	—
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	—	人	人
G P A等が下位4分の1	47人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	人	人
計	57人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。